

2025年12月18日

## 長谷工コーポレーション 千葉県成田市に「竹チップ製造工場」を新設 ～放置竹林整備で発生した竹を有効活用し、社会問題の解決に貢献～

(株)長谷工コーポレーション（本社：東京都港区、代表取締役社長：熊野 聡、以下「当社」）は、放置竹林の有効活用と建設副産物の再資源化などを目的として、千葉県成田市に「竹チップ※<sup>1</sup>製造工場（以下、千葉工場）」を新設することを決定しました。2026年10月の本格稼働を予定しており、地域資源の循環利用と環境負荷低減（セメント系固化材由来の年間CO<sub>2</sub>排出量削減）を両立する新たな取り組みとして、持続可能な社会の実現に貢献します。

日本全国に広がる竹林は、近年その利活用が進まず、管理が行き届かない「放置竹林」が深刻な社会問題となっています。当社では2024年3月より、学校法人福岡大学（福岡県福岡市）工学部の佐藤 研一教授との共同研究を通じて、竹チップを用いた「杭汚泥の固化処理技術」※<sup>2</sup>（特許出願済み）の開発に取り組んできました。この技術は、建設現場で発生する汚泥を竹チップで安定化・再資源化するもので、環境負荷低減やCO<sub>2</sub>の地中貯留にもつながる革新的な手法です。実用化の目途が立ったことから、竹チップの安定供給体制の構築が急務となり、このたびの工場新設に至りました。

### 【「千葉工場」概要】

住所	千葉県成田市
敷地面積	約 3,200 m <sup>2</sup>
施設構成	テント型工場棟、事務所棟、屋外備蓄ヤード、駐車スペース
着工月 / 竣工月	2026年3月（予定） / 2026年9月（予定）
稼働開始	2026年10月（予定）

千葉工場では、千葉県森林組合や周辺自治体、NPO法人などから調達した竹材をチップ化し、建設資材（杭汚泥固化材、地盤改良材、植栽材）や農業資材（肥料、飼料）として販売します。今後は竹害が深刻な関西圏や東海圏への事業拡大を視野に入れた展開を目指します。また、竹チップの用途拡大にも注力し、仮設地盤改良や植栽材、農業資材としての利活用など、多様な分野での応用を進めていきます。

当社は2021年12月付で制定した長谷工グループ気候変動対応方針「HASEKO ZERO-Emission」※<sup>3</sup>に基づき、建設現場における脱炭素化を推進しています。今後も「都市と人間の最適な生活環境を創造し、社会に貢献する。」という企業理念のもと、事業を通じた課題解決に取り組み、企業価値向上を目指しながら持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

※<sup>1</sup> 粉砕機などを用いて、竹を5ミリメートルほどに細かく砕いたもの

※<sup>2</sup> [https://www.haseko.co.jp/hc/information/press/20240926\\_1.html](https://www.haseko.co.jp/hc/information/press/20240926_1.html)

※<sup>3</sup> <https://www.haseko.co.jp/hc/csr/environment/climate.html>

## 【建設汚泥の固化処理フロー】

- ① 場所打ちコンクリート杭の掘削工事により建設汚泥が発生
- ② 建設汚泥に、竹チップを添加し攪拌
- ③ 建設汚泥の固化状況を確認
- ④ 運搬車両に積み込み、建設現場から中間処理場に運搬
- ⑤ 中間処分場にて再度固化処理を実施し、  
再生土としての各種品質を確認したうえで盛土材等として再活用



竹チップ



## 【竹チップによる固化処理技術を利用するメリット】

- ① 伐採後の竹を有効利用するための技術として竹害問題の解決に大きく貢献
- ② 竹の生長過程で吸収した CO<sub>2</sub> を地中に固定
- ③ セメント系固化材の使用量削減による CO<sub>2</sub> 排出量削減

## 【施工状況】



竹チップ攪拌



杭汚泥の状況



竹チップ添加攪拌状況

## 【竹チップの用途と需要】

竹チップ サイズ	mm	原木	40	20	10	5	0.1以下
建築資材							
用途	—	—	舗装材料	植栽材	汚泥処理材	建築材料（合板）	
顧客例	—	—	建設会社	植栽会社	HC	建設会社	
農業資材							工業資材
用途	肥料資材	肥料原料			粗飼料原料		バイオプラスチック
顧客例	—	肥料会社／農家			酪農家		全業種